

大分教育事務所訪問②-30 (計103)

臼杵市立北中学校に学ぶ2

学校経営から学ぶ

今回の訪問で感じたことは、生徒の姿や管理職や主任からの説明から、本校の学校教育目標である「わかる」「つたえる」「つながる」ことを全職員が意識し組織的な実践が行われていることです。それぞれの分掌部会が主任を中心に動いており、特に生徒指導や特別支援教育を担当する「つながる部」は、主体的に専門機関等と連携を行い、その情報を皆で共有し全校をあげた実践を行っています。このように各部会が機動的に活動できるのは、それぞれの部会の重点目標を常に意識し、目的と手段を明確にしていることです。そのことは、「先生たちは熱心に接してくれる」「北中が好きだ」の生徒の割合がとても高いことから証明されています。

今後は、学校が育成を目指す資質・能力を絞り込んでみてはいかがでしょうか。(例：自己表現力) そのことで、各部会や学年での実践をつなぐことにもなり、何よりも生徒達自身が学校生活においても意識し、ひいては地域や保護者との協働もすすむことになると思います。



NO.453 2021年10月 臼杵市立北中学校

わかる

友達と対話をしていると、自分の考えが整理され、相手だけでなく自分もよりわかってくる。



NO.457 2021年10月 臼杵市立北中学校

つながる

相手が取りやすいようにパスをする。自分が拾うという気持ちをもつ。そして、常に笑顔! だから、ボールがつながる。



NO.454 2021年10月 臼杵市立北中学校

つたえる

伝え方も大切だけど、お互いわかり合おうとする気持ちが一番大切だね。



NO.456 2021年10月 臼杵市立北中学校

満足感

自分の説明を納得した顔で聴いている。教室が拍手であふれる。みんなが笑顔になっている。だから、うれしい。



NO.455 2021年10月 臼杵市立北中学校

成長するために

友達の考えに助言をするのは、相手の成長を願うため。そして、自分の考えを広げるため。



NO.456 2021年10月 臼杵市立北中学校

一緒だよ

欠席している人の机もつける。そして、あの人ならどのような答えを言うかみんなて想像する。友達だから。

授業から学ぶ

教師は「一人も取り残さない」、生徒は「自分の考えを持ち、言える」「頑張りを認める」を意識しています。そのため、多くの授業でGKT(グループで協議する時間)が保証されており、その内容も効果的でした。

今後は、指導案の「めあて」については、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」となることを確認したり、「振り返り」は教師が願う具体的な

ゴールの姿を「子どもを主語」でより具体的に表してみたりしてはいかがでしょうか。そして、互見授業等で教師が考えた「振り返り」と、生徒が実際に書いたものとの違いや、「めあて」との連動、評価規準との整合性について協議することで、授業改善がより推進されると思います。